



平成12年度特別展示
宮崎の豊かな海の恵み



写真：(上) ウスベニキントキ *Priacanthus fitchi* (下) アカネキントキ *Priacanthus blochii*

平成12年度特別展示

「宮崎の豊かな海の恵み」

水産科学講座 岩槻幸雄・飯田貴次

宮崎大学農学部生物環境科学科水産科学講座における教官全員によって平成12年度の農学部附属農業博物館の特別展示を、「宮崎の豊かな海の恵み」というタイトルで行っています。

今回の展示では、宮崎県の魚類の多様性や漁業の特徴、最近話題となっている環境ホルモンの問題等について紹介しています。さらに各先生方が実施している研究課題の一つあげてもらって、現在水産の分野で行われている研究の一端を理解しやすいように展示しております。

九州地方の宮崎県が位置する日向灘は、沖合を北上する黒潮と、豊後水道より南下する沿岸水と間に位置する海域です。この日向灘沿岸域には、マイワシ、カタクチイワシ、アジ類、ブリ類、タイ類およびメジナ類等の多様な海岸性魚類が生息しています。また、南方系のブダイ類、ベラ類およびチョウチョウウオ類等も稚魚期に黒潮に運ばれて、この日向灘を利用して成長しています。

さらに日向灘沖合は黒潮の中流部にあたり、黒潮と深く関係して大回遊するカツオ類やマグロ類等の魚類が宮崎県の主要な漁獲物として多獲されています。これら魚類は、宮崎県の重要な漁業資源となっています。一方十分知られていませんが、北方系魚類であるサケなども日向灘北部海域でほぼ毎年採られています。

従って、日向灘海域は、温帯性、南方系（沿岸性と沖合性を含む）および北方系由来の魚類群集から成っている豊かな漁業資源および多様性を持っています。しかしながら宮崎県に分布している魚類の正確な総種数は未だ不明ですが、おそらく軽く1000種以上の魚類が生息していることは疑いないでしょう。その多くは日向灘で普通に漁獲され、鮮魚や加工食品として何らかの形で利用され、豊かな海の恵みを私たち、人間に与えています。

●宮崎の魚類や水産について勉強してみたい人へおすすめの図鑑や本

日本の海水魚. 岡村 収・尼岡邦夫(編). 山と溪谷社. 1997.

日本動物大百科6 魚類. 日高敏隆監修. 平凡社. 1998.

日本産魚類図鑑. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫(編). 東京大学出版会. 東京. 1984.

図説漁業白書 平成12年度. 農林統計協会. 2000. 財団法人農林統計協会. 東京 (毎年6月に出版).



アカメ *Lates japonicus*

アカメ科アカメは、おおむね宮崎県と高知県のみで生息する我国の固有種であり、河口域に生息する。アカメは環境庁により絶滅が危惧されており、希少種に指定されている。全長1.5mにも成長し、宮崎県ではマルカと呼ばれている。美味。

展示の概要

展示は以下の項目で行われています。

全 体

- | | |
|------------------------------|-------|
| 1) 宮崎県の漁業の特徴 | 飯田 貴次 |
| 2) 宮崎県の魚類の多様性 | 岩槻 幸雄 |
| 3) 環境ホルモン（外因性内分泌かく乱物質） | 延東 真 |

研究の紹介

- | | |
|---|-------|
| 1) 自発摂餌 — 新しい養殖技術 | 延東 真 |
| 2) 魚類のワクチン | 吉田 照豊 |
| 3) マシジミは雌雄同体で自家受精し、周年産卵できる | 山根 伸一 |
| 4) 魚の子育て | 神田 猛 |
| 5) 巻貝の食べもの | 生田 國雄 |
| 6) 養殖ブリの黄疸は大量のビタミンCを与えると軽減できる | 村田 寿 |
| 7) 海洋生物資源の有効利用 | 幡手 英雄 |
| 8) ストレスと養殖魚の病気 — やっぱりストレスは魚にとっても大敵！ | 飯田 貴次 |
| 9) アイガモ水稻同時作水田の環境 | 平野 克己 |

博物館では、さまざまな展示・事業を行っています

常設展示の紹介

身近な動物の骨格標本とはく製

入り口には、ライオンのはく製、ミサキウマやキリンなどの動物の骨格標本が展示されています。

動物の特徴をくわしく観察してみましょう。



稲作の起源をさぐる

わたしたちの食べているお米はいつごろ作られ始めたのでしょうか。ここでは、プラント・オパール分析法を用いて、稲作の起源と伝播をさぐる方法と、その成果を紹介しています。

宮崎の土壌

宮崎県の土には、どのような特徴（形、色、大きさ）があるのでしょうか。土壌断面モニリスで地面から5m下の土壌まで観察できます。



森のめぐみ

森は、わたしたちの生活にいろいろな形で関わっています。標本や模型、写真パネル等で、森のめぐみについて学習しましょう。

宮崎の農業

宮崎県は南九州を代表する農業県です。ここでは、早場米、漬物用大根、ヒュウガナツなどの作物や、牛肉や豚肉などの食肉生産についての展示があります。また、農学部での研究成果もあわせて紹介しています。



実施事業 (平成11年度のとりくみ)

博物館では、農業に関するさまざまな講演会を企画・実施しています。

講演会「人と酒の関わり」のようす



また、小・中・高の学生参加型の実験講座などもおこなっています。

特別事業「ミクロの眼で見てみよう」のようす



小中高生のみなさんへ

博物館は夏休み期間中も開いています。ぜひ、見学に来て下さい。

毎週 月曜日～金曜日 9:00～16:00 (休館：土曜・日曜日) 入館無料

行事予定

平成12年度の

おもな行事予定は次のとおりです。

8月 ■名称 夏休み特別開放
 ■内容 参加体験型の実験講座

11月 ■名称 大学開放日特別事業
 ■内容 講演会
 博物館の特別開館

※その他に各種の講演会等を企画しています。
 詳しくは下記にお問い合わせください。

開館 / 月曜日～金曜日

開館時間 / 9時～16時

休館日 / 土・日・祭日

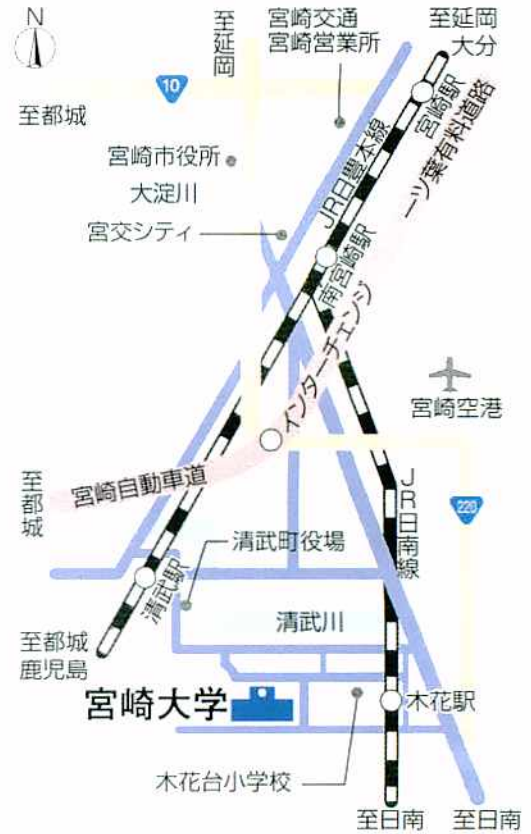
入館料 / 無料

附属農業博物館事務室

TEL/FAX 0985-58-2898

E-mail a0e501@.cc.miyazaki-u.ac.jp

大学へのアクセス



平成12年度 農業博物館スタッフ

附属農業博物館職員

館長(併任) 小川 嘉八郎
 研究員(専任教官) 宇田津 徹朗
 研究員(併任) 藤原 宏志
 研究員(併任) 那須 哲夫

博物館運営委員

食料生産科学科
 食料生産科学科
 生物環境科学科
 生物環境科学科
 地域農業システム学科
 地域農業システム学科

大野 和朗
 森田 哲夫
 雉子谷佳男
 小倉振一郎
 西脇 亜也
 山村 善洋

応用生物科学科 吉田 直人
 応用生物科学科 武田 博
 獣医学科 内田 和幸
 獣医学科 宮本 徹
 事務長 永井 健治